



本邦決済の将来像の再創造

歴史的に日本は、製造から金融のテクノロジーを支える情報産業に至るまで幅広い分野で創造的な変革を成し遂げてきています。日本が世界に先駆けて金融機関及び民間の決済に利用する電子的な決済システムを完成したのは 40 年以上も前のことですが、近年はシステム保守を主体とした漸進的な変化が継続されるに留まっています。

しかしながら昨今この様相は大きく変わり、日本および世界は国内・国際決済を新たなテクノロジーを活用して大きく変革を迎える日が来ています。

本日のスイフト・ペイメント・イノベーションフォーラム 2019 では、現在の日本における決済業務が直面している課題と期待される将来機会について俯瞰したうえで、銀行業務の将来像を描きます。今や国内の決済は手もとの現金から端末ボタンをクリックすることでリアルタイムに完了する姿に変わり、外国送金についても従来より格段にスピードアップされた追跡可能な透明度の高い方式が採用されています。日本の 110 の金融機関も 2020 年までには各システムがその対応を済ませることになっています。

これらの変化は新しいことへの挑戦なしには実現しません。より迅速な決済のためには適切なシステムが必要となり、一方で日々変化し高度化する詐欺やサイバー犯罪への対応も欠かせません。またイノベーションのためには国際標準の利用や将来陳腐化しない基盤の利用が必要になります。

このペイメント・イノベーション・フォーラムが日本のコミュニティにとって知見を幅広く共有し、将来に備えるための良い機会となると信じております。4月11日に帝国ホテルでお目にかかるのを楽しみにしております。



Eddie Haddad
Managing Director, Asia Pacific
SWIFT



Michael Moon
Managing Director, Payments, Trade &
Communications, Asia Pacific, SWIFT